

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（第9号）

令和6年8月30日  
新潟県農林水産部

## 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 8月29日発表の北陸地方1か月予報（8月31日から9月30日）では、平均気温は高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予報されています。
- ◎ 引き続き高温が予想されていますので、成熟期が早まる可能性があります。

## 〔今後の管理対策のポイント〕

### コシヒカリ

- ◎ 地域によっては、登熟期間が高温となったため基部未熟粒の発生が懸念されます。適期に収穫するために地域のJAや農業普及指導センターの技術情報や出穂後積算気温表などを参考にし、ほ場ごとに籾の黄化した割合で収穫期を判断しましょう。籾の黄化割合が85～90%くらいになった頃が収穫適期ですが、茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合もありますので穂を良く観察してください。
- ◎ 収穫期直前（出穂後積算気温900℃以降、籾水分が22%未満の時期）に空気が強く乾燥すると胴割粒が増加します。県の緊急情報や地域の技術情報を参考にし、強い乾燥となった場合は、できる限り速やかに収穫を始め、刈遅れないよう注意してください。
- ◎ 収穫時の籾水分が低い場合には、胴割粒の発生を防ぐため、張り込み後に通風循環するなど、水分ムラを解消させてから加熱乾燥を行い、必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。
- ◎ 色彩選別機を利用可能な場合は、品質確保のために有効に活用してください。

### 新之助

- ◎ 地域の出穂後積算気温表とほ場ごとの籾の黄化割合を確認し、積算気温1050～1100℃、籾黄化率85～90%をめやすに収穫してください。
- ◎ ただし、収穫期に近い出穂後積算気温が900℃（籾水分が22%未満の時期）以降に空気が強く乾燥した場合、胴割粒が急増しやすいため、籾黄化率80～85%をめやすに、通常より早めに収穫を始めてください。
- ◎ 事前に研究会単位で目合わせを行い、必要に応じて篩い目を上げる、色彩選別機を活用するなど、品質基準を満たすように調製しましょう。

### 台風等で倒伏した稲の対応

- ◎ ほ場に滞水している場合は、溝や水尻の排水口を修正し、できるだけ排水を促進しましょう。
- ◎ 倒伏ほ場で収穫した高水分籾の乾燥は、連続で乾燥せず、水分18～20%で一旦停止し半日程度貯留して水分ムラを解消した後、再度乾燥しましょう。乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能があれば活用しましょう。
- ◎ 穂発芽しやすい品種は、優先して収穫しましょう。

### 農作業安全

- ◎ 農作業時には、こまめな休憩と水分等の補給によって熱中症を防ぎましょう。
- ◎ 農業機械を運転するときは、ヘルメットを必ず着用しましょう。
- ◎ 収穫作業時のコンバインの転倒・転落や、タオル、衣服、軍手などの動力部への巻き込みに十分注意しましょう。
- ◎ できるだけ二人以上で作業し、やむを得ず一人で作業する場合は、家族などへ行き先を告げるとともに、緊急時に連絡がとれるよう、携帯電話を身につけておきましょう。

## 〔補足資料〕

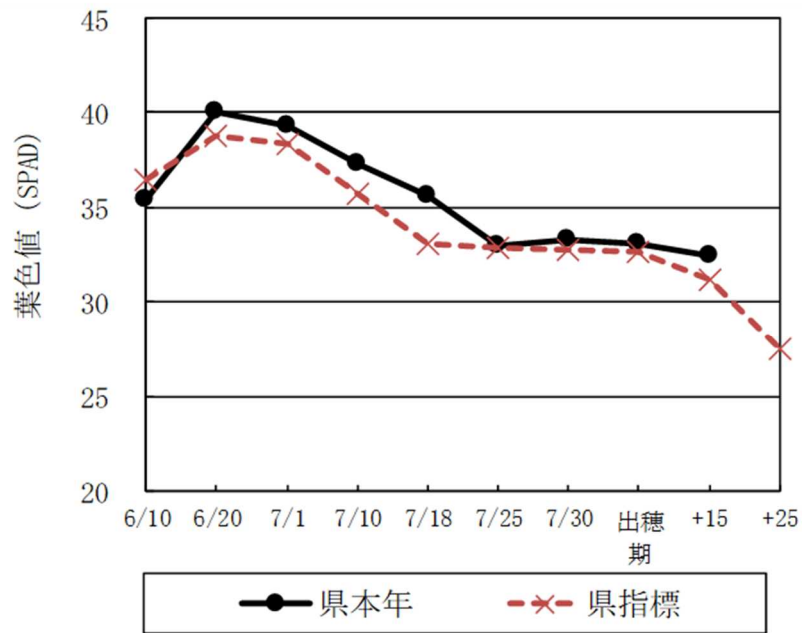
### 1 農業普及指導センターの生育状況

#### コシヒカリ

- 稈長は、県平均で指標値に比べ「やや長い」の状況です。
- 出穂後 15 日頃の葉色は、県平均で指標値に比べ「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
稈長 (出穂後 15 日)	<b>98</b>	92	やや長い	107
出穂期葉色 (SPAD 値)	<b>33.1</b>	32.7	並	+0.4
出穂後 15 日頃の葉色 (SPAD 値)	<b>32.5</b>	31.2	やや濃い	+1.3

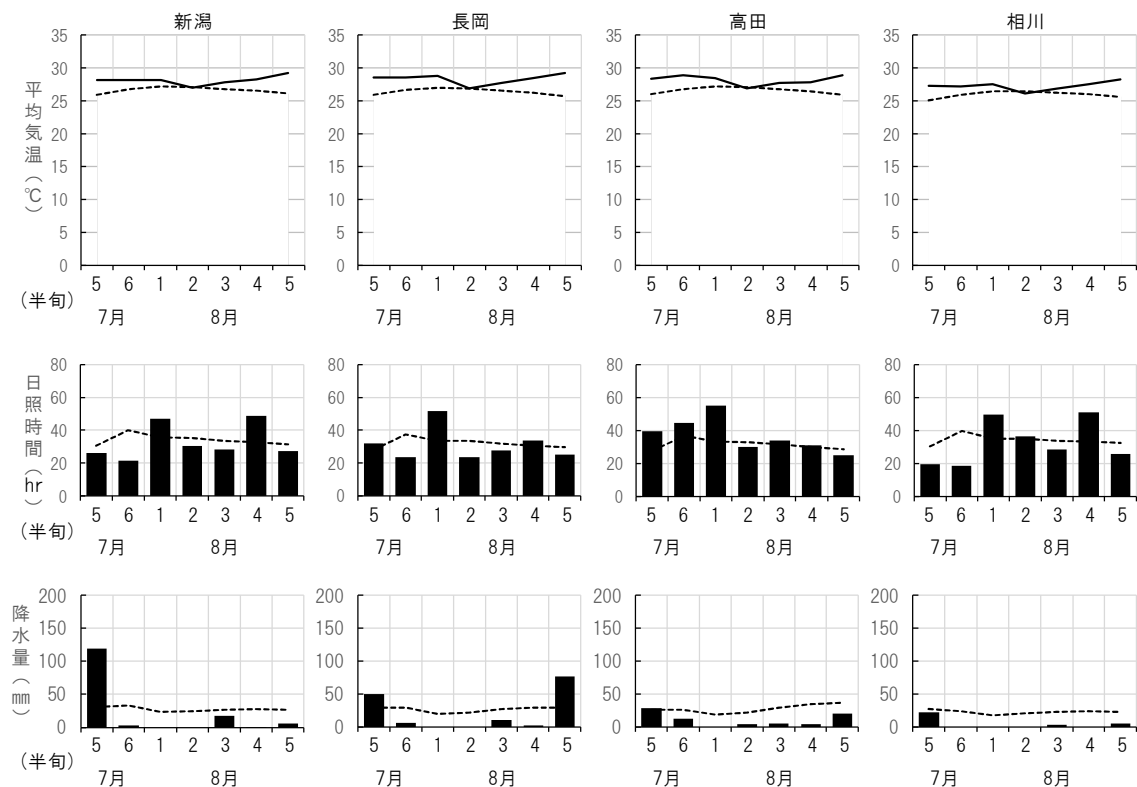
注) 県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値 (田植え 5 月 11 日、栽植密度 16.9 株/m<sup>2</sup>)



生育調査ほにおける葉色の推移

## 2 気象の推移

### 気象の推移（アメダスデータ）



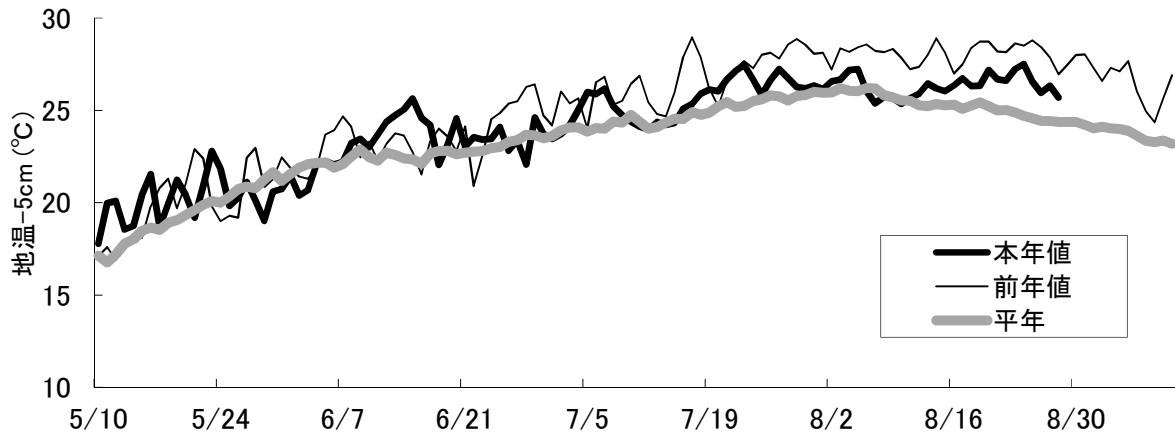
### 本年の登熟気温

登熟期間の気温	コシヒカリ (8/3 出穂)		
	本年	前年	平年
出穂期 1～10 日後の平均日最高気温	<b>30.7</b>	36.2	31.3
出穂期 1～20 日後の平均気温	<b>28.0</b>	30.9	26.8
出穂期 5～24 日後の平均気温	<b>28.2</b>	30.9	26.5

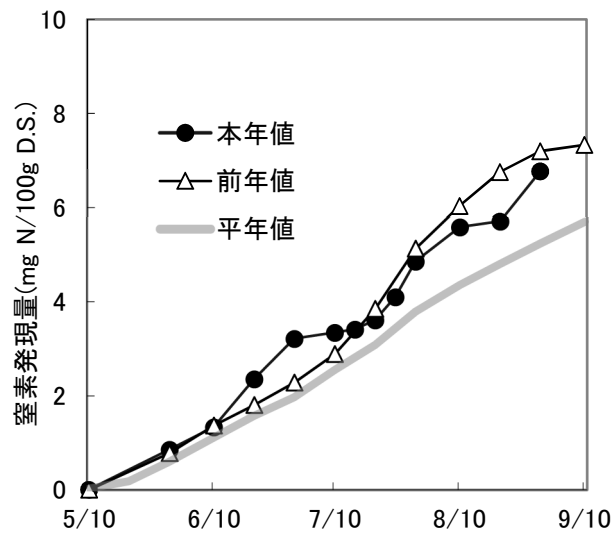
注) 新潟普及指導センターの出穂期、気温データはアメダス新潟

### 3 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 8/19～8/27 の期間の日平均地温は平年差+1.7℃で平年よりやや高く推移しました。この期間までの地力窒素発現量は平年より多く発現しています。



水田地温 (5 cm 深) の推移  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移 (8月28日)  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)  
初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培  
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a